

小児がんセンターたより



夏のイベント

今年も8月10日に夏の小児がんイベントを開催しました。前半は昨年も好評だったレモネードスタンド、後半は初の試みとして、小児がんの診断、治療の体験をしていただきました。指導は外科、病理診断科の医師10名体制で臨みました。

顕微鏡をのぞいたり、手術衣で縫合したり、エコーや内視鏡を体験したり、みんなのキラキラした目が印象的でした。また保護者の方も顕微鏡を熱心にのぞかれていたのが、想定外に素晴らしい光景でした。

成人の場合は、いずれ自分ががんになるかも、という意識が皆さんあると思いますが、小児がんにいつなるかも、と考える子どもはほとんどいないでしょう。しかし、日本で年間2500人くらいが小児がんになっており、そうしたお友達ができる可能性は十分にあります。ですので、小児がんについて知っておくことは、決して無駄ではありません。

共催のキャンサーネットジャパン、協賛いただいたメドライン・ジャパン合同会社、メディデータ・ソリューションズ株式会社、ジョンソンエンドジョンソン株式会社、当日お手伝いいただいた病院スタッフの皆様にご心から御礼申し上げます。

小児がんセンター長 北河 徳彦

小児がんと在宅療養



小児がんの治療の多くは、入院して行われることが多いのですが、入院しなくてもできる治療を外来で行ったり、在宅医や訪問看護の訪問をうけながらお家で過ごすことを選択する場合があります。また、近年小児領域では、医療的ケア児の増加の背景などもあり、地域における医療体制も以前に比べると整備されつつあります。しかし、小児がんの患者さんで在宅医や訪問看護のサービスを受けている件数は、決して多くないので、それぞれの事業所や個人の経験数もそれほど多くないことが言われています。そこで、地域で生活する小児がん患者や家族へのケアや医療について共有し、子どもや家族に質の高いQOLの提供ができるよう、よりよい支援・連携体制を考えるために年に1回ではありますが、「小児がん在宅ケア研修会」を開催しています。今年度は去る7月25日に開催し、計47名の参加者で事例の共有やディスカッションを行い、学びの多い研修会となりました。今後も、地域で医療や生活を支える皆様と共に病院側としてできることなど一緒に考えていきたいと思っております。

【研修会などのお知らせ】

1月25日(土) 小児がん支援室セミナー 14:00~16:00

2月15日(土) 国際小児がん Day イベント@みなとみらい

3月11日(水) 小児がん栄養サロン 14:00~15:00

詳しくは、ホームページでご確認ください



小児がん相談支援室 情報コーナー



～「病気の子どものきょうだい」について～

子どもが病気で入院や治療が必要になった時、患者である本人だけでなく、親やきょうだいも様々な影響を受けることが言われています。なかでもきょうだいは、一見親の関心が病児に向きがちになっていると感じたり、でも自分は我慢しなきゃ、と思ったり、一方で病気のきょうだいのことが気になってしょうがなかったり、と様々な感情を抱くことが言われています。きょうだいの関係性や年齢などによっても、その気持ちや思いは異なるかもしれません。最近では、「病気の子どものきょうだい」への支援の大切さも注目されています。小児がんのように長期の入院や治療が必要になる場合、きょうだいの預け先をどのようにするかや、きょうだいにゆっくり関わる時間がない、などのご家族のお悩みも生じます。病気のこどものきょうだいへの支援は特に地域で子どもたちを支える方々と一緒に考えていけると嬉しいです。

小児がんに関連したご相談は
「小児がん相談支援室」（本館 1 階 7 番窓口）までご連絡ください

時間：平日（月～金）8:30～17:15

相談方法：面談・電話・メール

電話：045-711-2351 E-mail：shounigan@kcmc.jp

各部門からのお知らせ ～検査科～

検査科は、8つの部門（検体検査室、一般検査室、細菌検査室、分子生物検査室、染色体検査室、輸血検査室、生理検査室、病理検査室）からなり、総勢31名の技師と技能員で担っています。認定臨床化学・免疫化学精度保証管理技師、超音波検査士、認定心電図専門士、細胞検査士、認定血液検査技師、認定骨髄検査技師、認定輸血検査技師など各種学会認定資格を取得した技師を配置しています。

小児がんの診断と治療支援のため、また患者さん中心の医療を心がけ、高い技術と信頼性のある検査情報を迅速、かつ正確に臨床へ提供できるよう取り組んでいます。一部の検査では24時間・365日、少ない血液で必要な検査ができる体制を取っています。

小児がんに関連の深い検査に細胞表面マーカー検査があります。この検査はフローサイトメーターという分析装置を用いて検査します。血液細胞にはその細胞を特徴づける抗原（表面マーカー）が細胞膜表面にあります。細胞にレーザーを照射することで生じる散乱光の情報と細胞抗原にモノクローナル抗体を反応させレーザーにより発光させて得られる情報をもとに解析します。顕微鏡では判定の難しい詳細な細胞分類や異常細胞の特定に利用され、造血器腫瘍の診断に必要な検査です。

今後も当センターにおける小児がんのチーム診療の一員として臨床検査に取り組んで参りたいと存じます。

